

令和7年度第2回総合教育会議 要旨

1	日 時	令和8年2月12日（木）午後1時30分から午後2時30分まで	
2	場 所	本庁舎2階 庁議室	
3	出 席 者	【委員】	【事務局等】
		郡山市長 椎根 健雄	政策開発部長 宗形 敏広
		教育長 早崎 保夫	政策開発部次長兼 未来創造課長 高濱 康
		教育長職務代理者 藤田 浩志	未来創造課長補佐 遠宮 昭則
		教育委員 阿部 亜巳	教育総務部長 渡部 洋之
		教育委員 見越 大樹	(教) 総務課長 武田 正俊
		教育委員 佐々木 貞子	生涯学習課長 吉成 和弘
			中央公民館長 片平 力也
			中央図書館長 若穂 豊
			美術館長 永山 多貴子
			学校教育部長 二瓶 元嘉
			学校管理課長 遠藤 修
			教育研修センター所長 吉田 圭輔
	こども部次長兼 こども総務企画課長 田母神 裕一		
4	内 容	議 題 「選ばれるまち」に向けた教育施策について	
5	議事内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">1 開 会</div> <p>○政策開発部次長 令和7年度第2回総合教育会議を始めます。なお、田中里香委員が教育委員会委員を任期満了により御退任され、令和8年1月1日から間桃子委員が就任されましたが、本日は御欠席となっております。</p> <p>また、本会議は郡山市公式 YouTube チャンネルにおいて動画配信により公開しておりますので御承知おき願います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">2 市長あいさつ</div> <p>○椎根市長</p>	

我が国における昨年の出生数は約 66 万人と、統計調査が開始されてから過去最少を更新し、国の予測を上回るペースで少子化が進んでいる。このような中、昨年 12 月に公表された日本経済新聞社などが実施した調査において、本市は「共働き子育てしやすい街ランキング 2025 年」において全国 15 位、東北では 1 位の評価をいただくなど着実に成果を上げている。本日は「「選ばれるまち」に向けた教育施策について」皆様の御意見をいただきたい。

3 議題 「選ばれるまち」に向けた教育施策について

(教育総務部長より、資料 1 及び資料 2 について説明)

(学校教育部長より、資料 3 及び資料 4 について説明)

○椎根市長

「「選ばれるまち」に向けた教育施策について」説明いただいた。

委員の皆様から御発言いただく前に、まず私の方から、この「選ばれるまち」に込めた思いなどを含め発言させていただきたい。

4 月から始まる総合計画において、将来都市像「東北の鼓動 選ばれるまち郡山」を掲げ、「選ばれるまち」をキーワードに市政運営をさせていただいている。教育の分野も非常に大事な部分である。来年度は「選ばれるまち推進課」を新たに設置し、本市のプロモーションの司令塔として、これまで各課で発信していたものを系統立てて発信していく。そういった中であって、教育の分野における政策等について、委員の皆様のお考えや御意見等をいただきたい。

○早崎教育長

委員の皆様にご意見をいただく前に、教育委員会として考える「選ばれるまち」について、総論的に述べたい。

「質の高い教育で子どもたちの未来を支える学都こおりやま」を掲げ、特色ある学びを提供していきたい。

小学校でのプログラミング教育や、小学校低学年からの英語教育、市内に限らず広域圏 17 市町村等を対象とした教職員への研修実施、あさかの大学や寺子屋郡山等、多くの市民の方が享受できるような教育・学びの機会を提供することで、「選ばれるまち」に貢献していきたい。

音楽の都「楽都こおりやま」にあやかって、学びの都「学都こおりやま」としても進めていきたい。

○椎根市長

先日、中央公民館に伺った際に、寺子屋郡山などの様子を見せていただいた。子どもたちが生き生きと参加する様子を見て、そういった環境づくりも行っていただいているなと感じた。これからも郡山市の教育行政に力を入れていただきたい。

○藤田職務代理者

郡山市が質の高い授業や取組を行っていることは事実であるが、今後はそれをいかに知ってもらうか、また個別に行っている施策をどう組み合わせるかを高めていくかが課題。例えば、学校給食においては、全額公費負担ばかりがクローズアップされているが、資料にもあるとおり、お米は全て地元の「あさか舞」を使用して美味しい給食を提供しているというようなことまではあまり知られていないのではと感じる。それらをどう知っていただくかが重要。

先日、清水台公民館で小学生や保護者向けに講座を開いた際に、実際に米を炊いて試食してもらい、市内でこんなに美味しいお米が取れるのだと体感していただく機会があった。公民館の利用者は年齢層が高く、若い世代の利用者増が課題であるので、公民館の利用率の向上という意味でも良い機会となった。様々な観点で色々な事業を組み合わせることで効果を上げていくことが重要。

○早崎教育長

施策をいかにPRしていくかが非常に重要。教育委員会では、地域教育懇談会等において地域住民の方々へのPRをしているが、様々な機会に施策の重要性などを広報していきたい。

○椎根市長

郡山市は経済が注目されがちだが、米や野菜の収穫量が県内1位であり農業も盛んなバランスの良い市だという部分も含め発信していければと思う。

○見越委員

子育て世帯に選ばれるまちという観点で発言させていただく。
まず、放課後児童クラブ後の送迎の実施について、例えば、茨城県境町では、スポーツ教室への無料送迎を行っている。共働き世帯にとって、スポーツクラブや塾などへの送迎というのは、非常に有用だと考える。

また、大学生や専門学校生向けに、郡山市内企業に就職すると返還免除となる奨学金制度があれば、郡山市内の大学に進学した学生の、卒業後の市内定着につながると考える。

○椎根市長

見越委員の発言の2番目にあった奨学金の件については、来年度当初予算に組み込む予定で進めている。また、放課後児童クラブ後の送迎については、課題も含めて検討していく。

○早崎教育長

部活動の地域展開などにも関わってくると思う。詳しく調査していかなければならない。

○佐々木委員

それぞれの部署が努力をしており、心配りをしている現状をお聞きした。選ばれないはずがないというプライドを持って、それぞれの年代に接していけば気持ちが伝わっていくと思う。

「選ばれるまち推進課」にあらゆる部署やあらゆる人が意見を伝えられるように、市民の声に丁寧に対応にしていただけことを期待する。

また、産学官連携については、学校現場でも非常にありがたい支えになると思う。学生が自ら考える探究学習を、産学官連携で支えて行けば、子どもたちの交流からキャリア教育へつながると考える。

「選ばれるまち推進課」においては、小さな声にも耳を傾けてほしい。そういったところから住民が郡山市に信頼を持ち、郷土愛が育まれていく。「選ばれるまち」の種は市民の声にこそあると思う。ブラッシュアップを重ねてほしい。

また、グローバル教育において、台湾との教育交流に係る覚書締結がなされたが、国外にも目を向けるという意味で非常に実り多い取組だと思う。

私は、平成初期の交流事業に2度ほど参加したが、一緒に参加した高校生から「視野が広がった以上に、英語の学び方が変わった」という意見があり衝撃的だった。

体験型の学習・教育の重要性に加え、グローバル視点での学びも充実させていきたい。

○学校教育部長

探求学習は、次期学習指導要領においても大変求められるところである。また、市内小中学校では、一人1台配付のタブレット端末により、ロイロノートというアプリを利用してみんなの考えを共有することができ、探求的な学習やグループ学習がしやすくなり、先生方の研修も実施しながら児童の育成に当たっている。

また、グローバル人材の育成については、金透小学校、西田学園、開成小学校の3校が台湾交流に参加した。それらの児童が将来、台湾に行ってみたいというような興味を抱いてもらうことが、グローバル人材育成や、国際交流につながると思う。教育委員会だけでなく、文化・スポーツ観光部などと共同で次年度以降も色々と進めていきたい。

○椎根市長

郷土愛、シビックプライドの観点で発言させていただく。小学生や中学生が意外と地元の企業を知らないというデータがあると聞いた。私たちからみれば、有名企業が色々あると思うが、そういった企業の名前が出てこず、そうすると、進学により県外に出たときに、地元の企業に戻るという選択肢があるということ自体が分からないという部分もあり、企業だけでなく、地元の歴史や地元の良さを行政側からもしっかり発信しなければならないと思うところである。

今後、新しい事業として、地元企業が従業員に代わって奨学金を返還する際の補助制度の創設や、地元企業の若者採用を向上させるために本市の産業や地元企業の魅力を発信していくところで、地元の企業を回るツアーなどを小中学生向けに実施することを予定している。

市外・県外から来た方からは「郡山市は子育てしやすいまちですね」とか「住みやすいまちですね」とのお声もいただいている。情報の発信という部分には力を入れていきたい。

○阿部委員

保護者として、郡山市が子育てしやすいまちだと感じている理由の2点を挙げさせていただく。

1点目は給食について。季節の行事を取り入れたメニューや、鯉料理などの家庭では準備しきれないメニューを給食で食べられる

というのは、子供たちの食生活を豊かにするという点で素晴らしい。

2点目は、総合教育会議で何度か発言しているが、1人1台タブレットが配られ、色々なことができるのは恵まれていると感謝している。学校の授業での活用もだが、スタディサプリや、新聞を読むことができるなど、家庭環境に左右されずに子供たちが勉強できる環境が整っており、教育の機会の平等とはこういうことだろうと感銘を受けた。

今後の要望としては、せっかく一人1台のタブレットを整備しているのので、それらの活用について、例えば、不登校のお子さんへの学習の支援や、特別な支援を要するお子さんに対する合理的な配慮として、読み上げ機能や文字の拡大機能の活用など、無限の可能性があると考える。

また、「選ばれるまち推進課」ができるということなので、今後はぜひ子供たちの意見を反映させるようなシステムをより充実させてほしい。教育委員会で取り組んでいるユースカウンシル事業では、子どもたちはしっかりと自分の意見を言えるし、大人顔負けのアイデアがたくさん出てくる。「選ばれるまち推進課」の事業においても、子どもたちの意見を取り入れる機会をいただければと思う。

○学校教育部長

学校給食に関して、他市町村においては給食センターで作っているところも多いが、本市の小学校では自校給食がほとんどで、作っている匂いをかきながら、また、行事に合わせた給食の提供も行っており、家庭では作らないようなメニューを提供したりしている。

また、タブレットの活用については、タブレットの更新により容量の大きいものにグレードアップしてきており、少しずつ良くなっていくものと考えている。

○教育研修センター所長

タブレットについては、様々なアプリが出てきているので、特別支援や不登校対策にしっかり活用するとともに、今後は、生成AIの活用等も出てくるので、学校教職員の研修を継続しながら、活用に取り組んでいきたい。

		<p>○藤田職務代理者</p> <p>郡山市ほど、医療環境に恵まれた地域はないと感じている。今は産婦人科の減少等、産む場所がないことが課題になっている地域もある中で、郡山市が広域圏の受け皿となりうる地域であるということを示していくことが重要だと思う。また、阿部委員の話にもあったが、特別な支援を要する子供たちにとっても、医療関係と教育現場との連携というのは不可欠であるため、そういった面でも恵まれた地域である。そういった方々にとって安心して生活ができる、子育てができる地域であるということを改めて広報してほしい。</p> <p>○椎根市長</p> <p>5歳児検診や、レスパイト事業など、新しい事業を打ち出したので、効果的な広報について検討していければと思う。医療面についての取組もPRしていきたい。</p> <p>本日、委員の皆様からは、しっかりと行政に反映させていかなければならない御意見をたくさんいただいた。</p> <p>より良い郡山、そして教育の充実に努めていく。</p> <p>4 閉会</p>
6	会議資料	第2回総合教育会議次第資料 2026. 2. 12